

2020.05.01

新型コロナ感染症対応病院実習案_Ver.2

新型コロナウイルス感染症の流行状況、実習先医療機関の状況等に応じて **4 つにレベル分けし【レベル0～3】**、それぞれのレベルにおける実習内容の例を示す。なお、いずれのレベルにおいても学生の感染予防および健康管理は徹底した上で実施する。

今期の実習においては、原則「集合」する時間を除くこととする。例えば、病院実習のガイダンスや発表会など3密状態を生み出さないよう工夫すること。

現在の医療機関においては、マスク、手袋やガウン等の医療材料が極端に不足している。学生実習が再開された場合、できる限り派遣元の大学で学生用の医療材料を調達して頂くようお願い申し上げます。必要な医療材料については、各受入施設とご協議ください。

● 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた実習内容の提案

【レベル0】 実習期間の短縮以外は、通常通り実習できる。

→中央業務実習を実務実習ガイドラインに記載されている期間を参考に実施、病棟業務実習の期間を全体の実習可能な期間に応じて調整する。

【レベル1】 学生は患者との面会を伴う実習が行えないが、中央業務に関する実習および電子カルテの閲覧ができる。

→ 患者に直接接しない中央業務を中心に、病棟薬剤業務の実習も行う。

(実習内容と期間の目安)

- 内服・外用薬調剤：1週間
 - 注射薬調剤、無菌調製（抗がん薬調製含む）、院内製剤の調製：1週間
 - DI
 - 医薬品管理
 - TDM：薬物血中濃度および患者情報に基づく処方設計
- } 2週間

- 病棟薬剤業務（薬物療法の理解と処方提案、副作用モニター）：
1 週間以上(実習可能な期間に応じて延長する)
がん化学療法（レジメンの理解）を含む。
原則として実患者のカルテ情報に基づき実習を行う。
持参薬確認は模擬症例や過去の症例に基づくロールプレイ等にて行う。

* 新型コロナ感染症が収束せず実習期間が最低 5 週間しか取れなかった場合、上記に書かれた期間を目安とし実習を組み立てる。

* 5 週間より長く期間が確保された場合は、病院の状況に応じて実習内容と期間を組み立てる。

【レベル 2】

学生は中央業務に関する実習はできるが、患者との面会および電子カルテの閲覧ができない。

→レベル 1 と同様の実習内容・期間を基本とするが、TDM や病棟業務など実患者による実習が困難な場合は模擬症例や過去の症例を用いた実習を行う。

模擬症例または個人情報を除いた実症例は可能な限り時系列で学生に開示する。各時点における薬学的管理について考察し、指導薬剤師とディスカッションする。

【レベル 3】

学生は遠隔実習しかできない。

→レベル 2 以下の状況になるまで延期することを原則とするが、やむを得ない場合は以下の様な遠隔実習を考慮する。

《中央業務に関連する遠隔実習の例》

調剤

- ・ 模擬処方箋あるいは個人情報を除く実処方箋を用いた処方監査の課題
疑義なし処方と疑義あり処方を組み合わせて、処方監査を実施させる。

TDM

- ・ 模擬 TDM 症例の解析と処方設計、薬物中毒患者への対応について考察、zoom 等を利用した薬剤師とのディスカッション

DI

- ・ 過去の医薬品に関する問い合わせ事例に対する回答に関する回答の作成

医薬品管理

- ・ 年間の医薬品購入金額に関する模擬データに基づき、どのように管理を行うべきか考察

《病棟業務に関連する遠隔実習の例》

- ・ zoom や Microsoft Teams 等 Web を利用した模擬患者(指導薬剤師)との面談、服薬指導体験
- ・ 模擬症例または個人情報を除いた実症例を時系列で表示。
各時点における薬学的管理について考察、指導薬剤師と Web を利用してディスカッションする。

*Web を使う場合は、個人が特定されないような一般症例を用いてディスカッションすることが望ましい。

*日本病院薬剤師会からテキストを発刊予定。また、HP にも別の症例を掲載予定であるため、参考として使用してください。

●新型コロナウイルス感染症の流行状況を発端とした課題の提案

新型コロナウイルス感染症流行を受け、大学や施設を問わず感染制御に関する演習や実習が可能となる。なお、原因菌の性質によって対応も違うなど、課題の出し方に応じて課題が広げられる。

- 感染制御に関する実習の強化：患者対応と治療、医療人としての感染防御方法、組織としての対策への理解（Business Continuity Plan の作成なども含む）、組織運営のあり方、消毒方法、論文検索と医薬品情報などを行う。